

Clostridioides difficile Toxin 遺伝子検査導入について

◎宇田 義浩¹⁾、橋本 沙織¹⁾、寺地 麻美子¹⁾、関口 海輝¹⁾、大和田 祐美¹⁾
医療法人 徳洲会 古河総合病院¹⁾

【はじめに】*Clostridioides difficile* (*C. difficile*) は医療関連感染として最も多くみられ、下痢や偽膜性腸炎などを引き起こす原因菌である。検査方法について *Clostridioides difficile* 診療ガイドラインでは、迅速検査と CD トキシン遺伝子検査の実施、CD トキシン遺伝子検査のみ、培養検査後の CD トキシン検査が推奨されている。以前当院では迅速検査を実施し、主治医からの追加依頼で培養検査後 CD トキシン検査を実施していたが SARS-Cov-2 感染の流行に伴い遺伝子検査機器を導入し 2023 年 7 月より CD トキシン B 遺伝子検査を開始したので報告する。

【方法】2023 年 7 月から 2023 年 11 月に *Clostridioides difficile* 腸炎を疑い提出された検体 59 件のうち、迅速検査（ミズホメディール社クイックチェイサー CD GDH/TOX）にて GDH 陽性、CD トキシン陰性となった検体 17 件を用い、CD トキシン B 遺伝子検査（ミズホメディール社スマートジーン CD トキシン B）を実施した。

【結果およびまとめ】①GDH 陽性、CD トキシン陰性 17 件中 12 件が CD トキシン B 遺伝子検査陽性、5 件が CD トキ

シン B 遺伝子検査陰性となった。

②迅速検査により GDH 陽性、CD トキシン陰性と確認された半数以上が CD トキシン B 遺伝子検査陽性であることが判明した。

【考察】CD トキシン B 遺伝子検査導入前は、迅速検査キットの感度不足により GDH 陽性、CD トキシン陰性時は臨床症状や培養結果を加味してからの診断となっていたが、CD トキシン B 遺伝子検査導入後は、診断が比較的容易となり早期の治療方針の決定に貢献、そして、スマートジーンは約 1 時間で結果が判明するため投薬までの時間が大幅に短縮できたと考えられた。

連絡先 0280-47-1010